

## 意外にも“漢字”は“かな”よりもやさしかった

さて実際に、一年生に初めから漢字で教えてみますと、たちまち漢字を覚えてしまい、文を読む場合にも、かな書きのものより漢字書きのものの方をすらすらと読むのです。漢字はむずかしいどころか、かなよりもずっとやさしいことが解りました。

当時、文部省の指導要領では、一年生の漢字学習の目標は“漢字が三十字ほど読める”という、ものでしたが、私は、学習漢字を三百字くらいにねらっていました。ところが、子供がおもしろいように覚えるものですから、とうとう三百字を越えてしまいました。

その後の実験では、もっとふやして、結局五百字に及びましたが、それでも消化不良を起こす子供はなく、三百字の時よりも五百字の時の方が、すべての面で良いという結果さえ得られました。

クラスにはたいてい一人か二人、一年かかっても五十音さえ覚えられない子供がいるものです。そういう子供でも、漢字は二百字くらいは覚えます。そして、この覚えた漢字を頼りに、前後の読めない“かな”を押し量って読みます。かなばかりの文では全く読めようもありませんが、

漢字の多い文は何とか判読できるのです。そんな読み方をしているうちに、かなをもいつしか覚えてしまいました。

知能の高い子供は、かなでも漢字と余り変わらないくらいよく覚えます。しかし、知能の低い子供は、漢字はよく覚えますが、かなはなかなか覚えません。知能の低い子供は、抽象能力が低く、分析能力が低いからです。

記憶の原理は第一が“関心”、第二が反復です。とりわけ「心ここにあざれば見れども見えず」という訳で、単なる音声を表わすだけのかなは、抽象能力の低い、知能の低い子供には関心が持てないので覚えられないのだ、と思います。